

2026年度 イノベーション体験プロジェクト テーマと概要

チーム	プロジェクトテーマ	Directing Professor
A	QOLを向上させるアプリケーションを企画・実装・提案しよう	NTT(株) 服部正嗣
<p>近年ChatGPTをはじめとするさまざまな生成AIが身近な存在となり、「何をどうしたいのか」を適切に指示すれば、多様なタスクのアシスタントとして我々を支援してくれるようになりました。しかし、生成AIへの指示のもととなる「何がどうなればうれしいのか」という根本的な問いについては、依然として我々人間自身が答えを出す必要があります。本テーマでは、この根本的な問いに向き合うことによりイノベーション創出をめざします。まず、チームでの議論を通じ、QOL(Quality of Life; 生活の質)を向上させる新たなアプリケーション案を企画します。その後、アプリケーションの試作、チーム内での試用と評価による仕様の再検討を繰り返して、アプリケーションの実装を行います。実装したアプリケーションの良さを効果的に他者に訴求する提案方法の工夫についても検討します。必須ではありませんが、デモンスタム構築のため、受講者はプログラミング経験者が望ましいと思います。</p>		
B	2050年のエネルギーを考える	中部電力(株) 榑嘉範
<p>エネルギーは現代社会に無くてはならないものです。スマホの電気、給湯器のガス、車のガソリンなど身の回りでは様々なエネルギーを利用しています。その他、衣食住、製造・生産、娯楽など私たちが何をすることもエネルギーは必要です。</p> <p>日本は原油、石炭、LNG等のエネルギー資源に乏しく、そのほとんどを海外輸入に依存しており、効率的に使う努力を継続している事をご存じのとおりです。さらに近年は、2050年までのカーボンニュートラル達成などがエネルギー資源をとりまく情勢、課題を複雑にしていると思います。エネルギーに関する変化として、太陽光発電、風力発電、電動車の導入や、水素、アンモニアへの燃料転換などがありますが、皆さんはこれらにどのくらい関心がありますか？</p> <p>本プロジェクトでは、エネルギーを題材とし、まず現状を確認します。その後、エネルギーの供給、利用などに関する意見交換、議論、検討を行い2050年に貢献できる提案を目指します。</p>		
C	まずは大学のエネルギー利用を効率化しよう	東邦ガス(株) 若原達朗
<p>2025年6月公開の「エネルギー白書2025」(第1部第2章)によれば、2022年2月のクライナ以降、中東情勢の緊迫化、米国のパリ協定からの脱退表明等、世界のエネルギーを取り巻く環境は大きく変化し、日本もエネルギー安全保障の確保に向けて万全を期す必要があります。その一方で、DXやGXの進展に伴うデータセンターや半導体工場の新増設により、省エネを見込んでもおお、日本の電力需要は増加が見込まれています。</p> <p>我々の身近な大学はエネルギー技術の研究・開発を担う一方、そのための実験やデータ処理でエネルギーを消費する等、この状況と無関係ではありません。ここで挙げた実験設備やデータ処理設備のエネルギー消費では、「冷却」がキーワードと考えられます。そこで本講義ではその点も考慮に入れ、大学のエネルギー利用の効率化に向けて、①大学のエネルギー利用の現状と、②エネルギー利用の効率化技術を把握し、これらから価値のある提案をすることを目指します。</p>		
D	自分起点で未来を創造する	日本特殊陶業(株) 加藤達哉
<p>気候変動、資源枯渇、労働力不足、少子高齢化など、世の中は非常に多くの課題を抱えています。また、VUCAの時代と言われて久しく、先行きも不明瞭な中、こういった社会課題を解決していけるようなイノベーションが求められています。なかなか容易なことではありません。そこで、本プロジェクトでは、自分起点(興味や関心、好奇心)で100年後の未来を描き、バックキャスト思考で未来マップを作成します。そして、そこに潜む社会課題を抽出し、新たな価値(仕組みづくりやデバイスなどのモノづくり)を創出することによって課題を解決する、といった一連のプロセスを体験します。チームによる課題の解決や実際に活躍する人達との交流なども通じて、イノベーションに繋がる意識や行動力の獲得を目指します。新たなモノを創り出しても、既存品の作り方を変えても、売り方や提供の仕組みを変えてもイノベーションです。チームの仲間と一緒に未来の創造にチャレンジしていきましょう。</p>		
E	実社会で活かせる「デザイン思考」を学ぶ ～販促コンペに挑戦～	梶田行宏
<p>本講義では、協賛企業のリアルな課題に挑む「販促コンペ」を通じて、デザイン思考を実践的に学びます。デザイン思考は、①人を理解し、②課題の本質を見極め、③新しい価値を生み出すための思考法です。名古屋大学には多様な学部がありますが、このプロセスを実践的に体験できる機会は多くありません。</p> <p>皆さんは、観察や調査を通じてユーザーの行動や感情を捉え、多様な背景を持つメンバーと協力して企画をまとめていきます。</p> <p>これらの実践を通じて、皆さんが未来のフィールドで求められる「課題発見力」と「協働力」を磨くことができます。実社会で力を発揮するための「新しい学び」に一步踏み出してみたい方の参加を歓迎します。</p>		